

広報PJからのお願い

『南森界隈歴史探訪散歩』についてのご意見、ご感想をお待ちしています。ご所属、お名前を記載の上、以下のメールアドレスまで投稿ください。

info-shinsa◆osa-kendo.or.jp

上記メールアドレスは◆を@に変更後お使い下さい

掲載されている記事ごとに1 いいね 2 いまいちだね の選択投稿ができるようになっております。非常に簡単ですので多数のアクセスをお待ちしております。

PCの方は下記URLへ（スマホも可）

<https://forms.gle/dSzZghyLK3xtvHrc6>

スマホの方は、下記QRコードからアクセスできます。



従来のようにメールを利用されてもかまいません。

よろしくお願いします。

【帰路】南森探訪北北西コース JR 天満駅・大阪メトロ天神橋筋六丁目駅へ

・（雨天時や暑さの残る時期、商店街アーケード下コース） 広報誌 11月号をお届けします。

内容は以下のようになっております。

・「第3回 北北西コース JR 天満駅・大阪メトロ天神橋筋六丁目駅へ」編

今年の夏は、大変な暑さでした。みなさまはお変わりございませんか。天気予報では、11月まで暑さが残るそうです。でも秋だから、どこか気軽に出歩きたい気分です。今回の散歩コースは、雨や暑さを避けながら、ぶらぶら歩ける商店街のアーケード下を中心にご紹介致します。散歩の目印にお店の名前がたくさん出てきますが、ご了承ください。あなたも散策してみませんか。

（柴田洋一 教職員クラブ）

第3回

帰路：北北西コース

JR 天満駅・大阪メトロ天神橋筋六丁目駅へ

南森界隈歴史探訪散歩

趣味で歴史散歩を研究している剣道と居合道を嗜む教職員クラブの柴田洋一先生にま
とめて頂きました。皆様からの新しい発見、情報をお待ちしております。

Vol.003

2025.11.1 発行

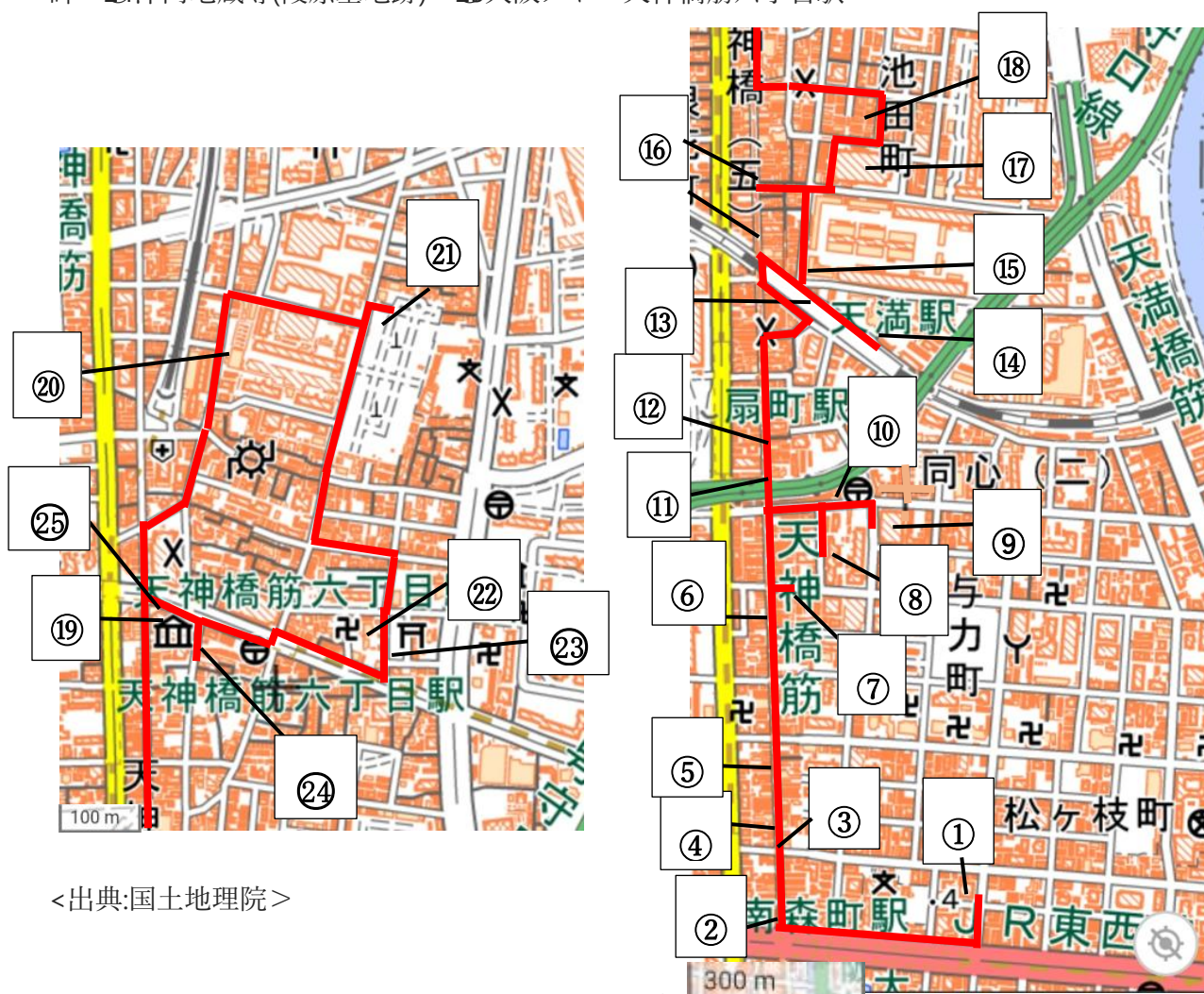
発行責任者 公益社
団法人
大阪府剣道連盟
広報PJ

3. 【帰路】北北西コース JR 天満駅・大阪メトロ天神橋筋六丁目駅へ

・(雨天時や暑さの残る時期、商店街アーケード下コース)

今回の散歩コースは、雨や暑さを避けながら、ぶらぶら歩ける商店街のアーケード下を中心にご
紹介致します。散歩の目印にお店の名前がたくさん出てきますが、ご了承ください。

①【大剣連事務所】→②りそな銀行ショーウィンドウ(書道)→③刃物店國重→④御菓子司 薫々堂
→⑤天参(天神橋三丁目)商店街→⑥天牛書店→⑦救世軍→⑧ニク サングルマン→⑨阪急オアシス同
心店→⑩正善寺→⑪夫婦橋跡碑・夫婦橋地蔵→⑫天四南商店街(天神橋四番街)→⑬JR 天満駅前
→⑭正道会館→⑮赤レンガ塀(天満紡績所跡)→⑯天神橋五丁目商店街→⑰ぷららてんま天満市場(旧
天満青物市場)→⑱天満市場界隈→⑲大阪くらしの今昔館→⑳関西大学天六キャンパス跡記念碑
→㉑大阪市設北霊園(旧長原墓地)→㉒摂津之国国分寺→㉓地下鉄工事現場ガス爆発事故犠牲者慰霊
碑→㉔冲向地蔵尊(葎原墓地跡)→㉕大阪メトロ天神橋筋六丁目駅



<出典:国土地理院>

①**大剣連事務所**を右手南側で出て、表の大通りの国道1号線をさらに右手西側へ、西方の天神橋筋商店街のアーケードまで、大阪メトロ南森町駅前をめざしましょう。地名の「**南森町**」は、以前に南森町の北に延びる両側町に北森町があって対だったのが、地名変更でいまは南森町二丁目・天神橋三丁目になったため、南森町だけが残った。

駅前商店街のアーケード南西角まで来ると、大和南森町ビル(天神橋二丁目北2-26)1階の入口3号の東側で、りそな銀行東側に天神橋二丁目商店街事業協同組合の掲示板がある。生活情報の他、商店街の企画ポスターも目を引く。例えば、7月ギャルみこし、3月忍者パレード等が有名。

つぎに、その後ろの②**りそな銀行ショーウィンドウ**に目を移す。この掲示物は毎月変わる。この作品の作者は書家の今柄紫峯(しほう)さん。この情報は前回7月の2コースで紹介した大阪茶会で教えていただいた。彼女は、茶道でお茶をたてる茶釜(ちゃせん)の産地、奈良県生駒市白庭台から世界へ活動する茶釜 MOJI アーティスト。茶筴文字は、廃棄される茶筴を活かして生まれた書。取材した9月の題は、秋麗。



同じ側の並びで、ドラッグストアを越えたビル前の看板に、古武術×エクセサイズの文字を見つける。ここの6階で体験をやっているらしい。**古武術**といわれると気になってしまう。

商店街のアーケード下を北へ進もう。次の辻(溝之側筋)を過ぎると、③**天神橋三丁目商店街**。通称、天三は距離が長い。この溝之側筋から北の方の阪神高速道路の高架の手前まで。そのため、アーケード下に下がる小鳥居の色と名で4つのエリアに区切られている。南から北へ、真朱(しんしゅ)・桔梗(ききょう)・浅葱(あさぎ)・萌黄(もえぎ)だ。

左手西側3軒目の包丁屋さんに目を向ける。店先には④**刃物店國重**(天神橋三丁目2-36)の行灯。店の奥には**本家國重刃物店**とみえる。店前に広がる左右のショーケースを丹念に見ると、創業安永年間(1772年)。刀剣写真の解説に**大塩平八郎**の名が見つかる。いまでも営業を続けている老舗のひとつ。時代劇ファンでなくても、「大塩平八郎」と聞けば、テンションが上がる気がする。店内右奥には、天井近くに槍が横向きに飾られ、棚の左に甲冑、右に太刀と迫力がある。店内正面の木製の商標に打刃物師とあるように、打って仕上げた刃物を販売する。左壁のハサミから正面の包丁まで、所狭しと飾られている。店内には外国人観光客が長居する姿をよく見かける。



続けて、北へ進むと、左に青果店、その向こうの

2階に占いの文字、左手右側柱に、落語の寄席のポスターを見つける。その横が、木製の大きな看板の⑤御菓子司 薫々堂(くんくんどう、天神橋三丁目 2-27。事務局御用達)。老舗のひとつで、季節の和菓子で賑やかだ。店前に寄席のチラシが置かれ、ご贔屓の様子。この側で3軒向こうにあるレトロな構えの酒屋では、奥が立ち飲みで、夕方から賑やか。

次の辻(寺町通)の右手前には、創業 1948(昭和 23)年の丸万寿司。北側の筋向かいには、特製手造りとうふの前田豆腐店と、老舗が続く。辻を北に進み、ドラッグストアを越えた左側の 100YEN SHOP・Can☆Do は、高校生が秋の文化祭前に買い出しに来る場所。次の辻までの間は、比較的口の広い中型店舗が目立ち、照明が他より明るい。

次の辻(南同心町筋)の右手前は、木製の構えのお好み焼ひろ川(事務局長御用達)。右の通りを覗くと、道が不規則に蛇行している。正面の堀川児童遊園地の中は、時計と反対廻りに、文殊延命地藏尊、雲梯、天三会館、鉄棒、掲揚台、滑り台にブランコとベンチ。敷地北側には石碑。中野岩蔵先生顕頌碑。1933(昭和 8)年に済美幼稚園用地を大阪市に寄付。1945(昭和 20)年同園が戦災で焼失したので、同園地をここに換地した。北側の蛇行した道を東へ進むと同心町へ通じる。

もとのアーケード下へ戻って、右手北側へ進む。アーケードから下がる看板で、天三おかげ館を過ぎて左側に目を向けると、創業 1907(明治 40)年の⑥天牛書店がある。戦前に日本橋界限、戦後に道頓堀界限に出店していた。ここは販売のみで、買取りは江坂店で行っている。

次の東西に抜ける辻(与力町筋)を右側東へ少し進むと、右手南側にキリスト教の社会福祉法人・⑦救世軍天満小隊の大阪セントラルホール(天神橋三丁目 6-20)がある。戦後 1950(昭和 25)年から復活して、年末にターミナル駅の百貨店前等で、社会鍋という募金活動を行っていた団体だ。

もとのアーケード下へ戻って、右手北側へ進むと、天井から関西大学の校章入りの大きな提灯が下がっている。後で説明するが、天神橋筋六丁目の北東方向には、かつて関大天六校舎があった。そのご縁からか、いまでもいくつかのプロジェクトで大学と商店街・天満宮とのかかわりがある。

天神橋三丁目 8 の辻(北同心町筋)には、信号のある交差点がある。ここは、かつて天満堀川があった場所で、横断歩道の中島にあたる東西の場所が堀川跡である。

この東西の通りを左手西側へ抜ければ 扇町公園が斜め筋向かいにあたる交差点に出る。交通量が非常に多く騒がしい。左手前角にはコンビニがある。また、交差点の右手北側には、大阪メトロの扇町駅 3 番出入口がある。構内のかなり奥にはトイレもある。

さて、もとのアーケード下から横断歩道を渡らずに、右手東側に立ち呑み屋街を進み、次の右角(天神橋三丁目 9)を右手南側に入り、左手のマンション 1 階に目を向けると、黒毛和牛セットなどがメニューの⑧ニク サングルマン(天神橋 3-10-8 与力町スカイハイツ 102)がある。ここは大剣連会員の船城先生にご紹介いただいた。

歩いてわかることだが、このあたりの地上には、公衆



トイレが見当たらない。お店かコンビニ以外には、⑨阪急オアシス同心店(同心2丁目5-13)の2階ぐらいだ。場所は、ニク サングルマンの店から1ブロック東側なので分かりやすい。休憩の場合、同心店にはイートインスペースがないので、晴れていれば西側筋向かいの公園木陰のベンチを利用すると便利だ。阪急オアシスの北西側、能勢侯の屋敷地(天神橋三丁目11-3)に、1897(明治30)年日蓮宗能勢妙見宮松雲山⑩正善寺が移された。

もとのアーケード下の横断歩道まで戻ろう。ひとつめの横断歩道を越え、ふたつめの横断歩道を渡る。上には高架の阪神高速道路で天井が低い。渡る手前の中島と向かい側の両横には、かつてここに架かっていた夫婦橋を模した石製欄干が並ぶ。

⑪夫婦橋跡碑は、ふたつめの横断歩道の手前左手西側に古



写真と石像と、北側へ渡って左手西側に碑文と絵図がある。それ



によると、堀川の開削は1598(慶長3)年で、いまの扇町交差点あたりから東北へ延伸されたのが1838(天保9)年とのこと。絵図によると、橋から少し北へ進むと道が右へ逸れて細くなっていた。堀川が埋め立てられて平面道路になったのは、1972(昭和47)年だった。

延伸前に、このあたりに女夫池(めおといけ)があり、悲しい逸話が残されていた。延伸により橋が架けられ、池が埋め立てられた土地に能勢侯の屋敷ができ、妙見堂が建てられ、「女夫池の妙見さん」と親しまれた。牛の日に縁日が催されて賑わった。

1987(昭和62)年からは、⑪夫婦橋地蔵尊が、北西側の夫婦橋跡碑のすぐ西側、扇町駅4番出入口

左横に祀られた。これは、この地にあった雪本氏宅に祀られていたものを、移転の際に天四南振興町会が譲り受けたもの。この取材中にもお参りするひとがいて、愛されていることが分かる。石製欄干の東側には喫煙エリアのボックスが設けられている。

地名の「扇町」は、一説によるといまの扇町交差点あたりを、扇子の要に見立てて、南東部に扇状に広がった土地に、末広がり縁起も込めて名付けられたという。

ここから⑫天四南商店街(天神橋四番街)。あたりの店には、大衆酒場風の飲食店が増えてくる。

そんな中であって、横断歩道から右側4軒めに表が石造りで、内装がレトロな西洋茶館前に行列ができていた。

天神橋四丁目6-18の角の看板に、痛くない合気術整体。すぐ右へ入ったビルの3階だそう。

暫く北へ歩くと、次の辻の左手西側からひとがたくさん流れて来る。大阪メトロの扇町駅1番出入口からだ。西側筋向かいには、8chan 関西テレビのビルがある。

辻から北側へ、昭和レトロなお店が続く。左手1軒めに寛永7(1630)年創業の名菓千鳥饅頭(天神橋四丁目8-1)。右手2軒めに寛永12年、くらわんか餅の世界・あんこ(天神橋四丁目5の南西角)。表の立て看板に天満もなかの張り紙が目立つ。右3軒めはレトロな洋服店のMen's KOMAI(5-4)。左手2軒めにBag shop アカシヤ(8-30)。3軒めにレトロなコーヒーハウスビクター(8-29)。看板に北へ400mにカフェテラスシャンゼリゼとの案内表示。

N★A★LUCKの店頭で、面白標語Tシャツやタイガース雑貨、知らんけどトートバッグ(6色)等に目を惹きつけられる。

スーパー玉出(左手西側)と交番(右手東側、天神橋四丁目4南西角、曾根崎警察署天神橋四丁目交番)を越えたあたりから⑬JR天満駅前にかけて、商店街の雰囲気飲み屋街へと変貌する。交番の前を右斜め北東方向に進み、角を左手西側へ曲がる。角の林ビル(華心BAR、天神橋四丁目4北東角)前には、50円自販機が2台並ぶ。駅南側には3軒並びの安値店。西から東へ、天満御旅所、肉屋KINBOSI、alioli酒場。

駅高架下のサンドラッグを越え、駅の高架線路に沿って北側道路を東へ。ドン・キホーテを越えて高架表示32R5-1の左手北側に空手の⑭正道会館(錦町3-1 龍王ビル)がある。

さて、アーケードのある商店街からみて右手北東側一帯の北錦町から池田町5~7の天満市場界限が、新しい男女に出会い場所と注目されている。昔からのキタやミナミの繁華街は、ここ数年、外国人観光客でごった返すので、それに伴って、地元のひとの流れが変化した。

駅北側の道を戻って、飲み屋街(北錦町)と延原倉庫の西壁の掲示板前が出る。飲み屋街との南北の境にある低い⑮赤レンガ塀(錦町4)は天満紡績所跡。

この天満紡績は1887(明治20)年設立、1889(明治22)



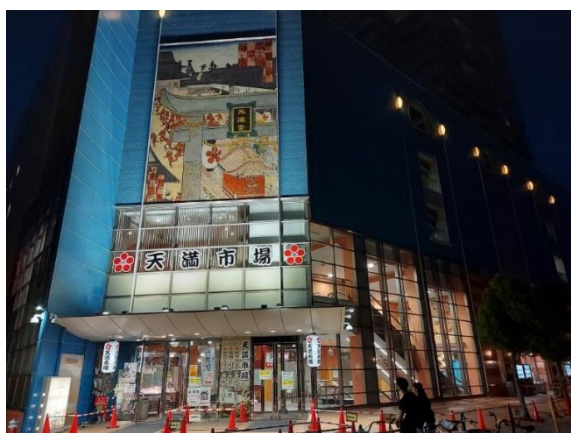
年操業開始。規模は第1工場約7000 鍾、第2工場約27000 鍾で、当時の日本国内屈指だった。しかし、労働条件が整わず、2度にわたる労働争議が発生した。この**天満紡績争議**は、日本の紡績業で最初の労働争議として、初期の労働運動の象徴的な出来事とされる。同年9月30日-10月6日に女工たちが賃上げ要求、1894(明治27)年1月27日に夜勤工員が上司解雇の要求を掲げた。その後、経営が不安定となり、紡績部門は1900(明治33)年3月大阪合同紡績(西成郡)と合併し、天満工場を経て、東洋紡績の一部となった。製造部門は1938(昭和13)年に金属加工業である中西金属工業に移り、1950年に圧延部門が分離独立して天満製鉄株式会社が設立され、現在に至る。

さて、延原倉庫の赤レンガ塀沿いに路地を北側へ進む。小さな店が狭い路地に並び、中からいろいろな話し声や笑い声が聞こえて賑やかだ。備長串屋わたるを越えて、壱円堂前に50円自販機が2台あった。大提灯が目印でジャズ曲がかかる寿司炭火割烹天満鮨の前に人だかり。

右側の赤レンガ塀が切れた角を、左手西側へ細い路地を抜けると、商店街のアーケード下へ出る。この右手北側からは**⑩天神橋五丁目商店街**。五丁目6の角にあるクツショウテン(クツ修理・合カギ・カバン修理)から道幅が急に狭まる。その理由は、いまの天神橋筋商店街のもとになった江戸時代の亀岡街道がここから右斜めの北北東の方向へとつながって、ここからまっすぐ北側には田んぼの細いあぜ道だったから。確かに、さっき通った夫婦橋跡碑の絵図でも細くなっていた。右手9軒めの寿司春駒(五丁目6-8)の行列を越えると急に静かになる。レトロな昭和の雰囲気に戻る。



路地を戻って、赤レンガ塀の角を右手東側へ曲がると、**⑪ぶららてんま天満市場**。この地にあった



た旧天満青物市場は江戸時代に設けられた日本最古の卸売市場。現在でも、南側筋向いに青物市場がある。

ぶららの入口左側のパネルによると、開業は1616(元和2)年京橋南詰(現中央区大手前1丁目)、1651(慶安4)年に京橋片原町へ移転、1653(承応2)年天満へ。1909(明治42)年北の大火(天満焼け)、1931(昭和6)年福島区の大阪中央市場へ統合。1945(昭和20)年大阪大空襲で焼失。1949(昭和24)年池田町(元東洋紡績天満工場跡地)に再建。1973(昭和48)年市場半焼。2005(平成17)年「天満市場 市街地開発事業 28階建てのぶららてんま」竣工。現地地層を再現し展示。1・2階にトイレあり。



ぷららてんまから北側へ抜けると、トタン屋根の一面(天満市場、池田町5～7)が⑩天満市場界限。この界限が賑やかな「裏天満」の中心ようだ。区画は東西に3ブロックある。ここでは、元気な呼び込み声が、西側の南北の通りに飛び交う。小規模大衆酒場がぎゅうぎゅうに並んで売り上げを競っている。東側の大提灯が下がる南北の通りはちょうちん通りと呼ぶそうだ。

では、ちょうちん通りを北へ抜け、つぎの辻を左手西側へ進む。ここは池田町中央通り。この界限は、街灯の看板文字で通りの名がわかる。3つめの辻で南北方向の天六東通りに交わる。

この辻では、名前のついた道が4つ交わる。北側は天六東通りで、北へ進むと右手街灯の天神橋筋東通り NO.2 から右斜めの北東方向へ進むと昔の亀岡街道に通じる。

辻の東方向はいま歩いた池田町中央通り。南側はくねって細い天神橋筋の東側裏筋(天五)から履物問屋の富山商事(天神橋四丁目12-14)のところで、ぷららてんまへ通じるT字路に戻る。ぷららてんまの西側南北斜めの通りは天満駅前北本通りと呼ぶそうだ。

最後に西方向は天神橋筋東通り。アーケード下の辻を抜けて信号のある横断歩道を西へ渡って、天五中崎通商店街に通じる。入って次の右手角に居酒屋旬菜・旬魚のKENNY(浪花町五丁目7新家ビル1階)がある。入り口横の壁に紹介の雑誌記事がたくさん貼られている。

つぎは、アーケード下へ戻って北へ進む。次の辻から北側は、天神橋筋六丁目へ入る。北へずんずん進んだ先にある、大きな交差点が、東西に往来の激しい都島通。

その右手前的大阪市立住まい情報センタービルの8階に、⑪大阪くらしの今昔館(天神橋6丁目4-20)がある。最寄駅は地下の大阪メトロ天神橋筋六丁目駅だ。駅からは、地下1階の3号出口と連絡している。トイレが地階入口左手前にある。商店街からは1階入口から入る。8階の今昔館入口までは、エレベーター利用が便利だ。トイレは各階にある。

開設の経緯についてご紹介。1990(平成2)年に『大阪市総合計画21』において「住まい情報センター」の構想を基本として、住情報機能の提供と展示機能をあわせた施設の計画が進められた。1999(平成11)年11月に「大阪市立住まい情報センター」が開設され、まず住情報機能を担う「住情報プラザ」がオープン。その1年半後の2001(平成13)年4月に「大阪市立住まいのミュージアム」が誕生し、翌年4月に愛称が「大阪くらしの今昔館」に決定。

ここは「住まい」をテーマとした日本初の専門博物館。高度な学術性をふまえ、市民の目線に立



大阪市立住まいのミュージアム

大阪くらしの今昔館

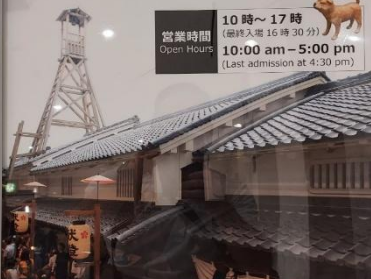
The Osaka Museum of Housing and Living





営業時間
Open Hours

10時～17時
(最終入場 16時30分)
10:00 am～5:00 pm
(Last admission at 4:30 pm)



料金	学童展	企画展	常設展・企画展
一般	600円	1,000円	1,400円
学生	300円	1,000円	1,100円

無料

8F

そのため、新型コロナ流行前は外国人観光客で連日大賑わいだった。定休日は火曜と年末年始。新しい催しものの歴史目撃型XRの"大阪百世 oosaka momoyo"は入場料と別料金がかかる。

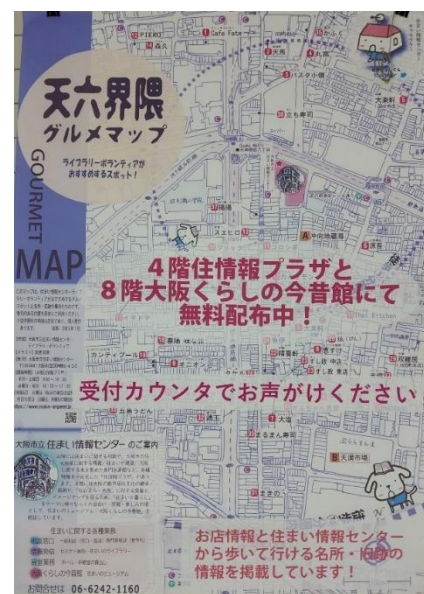
地下1階に降りて、駅構内の

北区长柄西一丁目 1-28 の一区画は、関西大学天六校舎の跡地。いまは②〇**関西大学天六キャンパス跡地記念碑**(長柄西一丁目 1-28、GEO TENROKU TWIN TOWERS 南西角)が建つ。天六校舎では、1929(昭和 4)年から 1994(平成 6)年 3 月まで、第 2 部の夜間教育が行われた。



大学は敷地を売却し、梅田駅から東方向の北区鶴野町一丁目5番地に梅田キャンパスとしてKANDAI Me RISE が2016(平成28)年を開設した。コンセプトは、自主的に考え、自律的かつ積極的に行動する「考動」を教育における大切な指針とし、

天六校舎跡の東隣りには、㊶大阪市設北霊園(旧長柄墓地、長柄中二丁目4)がある。この界限には焼き場や墓地があるので、不思議に思う方がいらっしやる。実は江戸時代初期から明治時代初期には、いまで言う旧暦の7月半ばにあたる盂蘭盆会の時期に、大坂三郷(天満組、北組、南組)では無縁仏を供養して功德を積む「大坂七墓巡り」が流行した。



七墓のうち、葭原墓地がいまの天神橋筋六丁目(天六)交差点の南東にあった。墓地はのちに、長柄墓地(現大阪市設北霊園)に移転。墓地内には、北入口すぐ右手のC区に**小林佐兵衛**(遊侠、前回の2南東コース天満橋へでご紹介)、大野規周(造幣局職員)、北東の1区に**尼崎伊三郎**(豪商)、近藤南洲(儒者)たちが眠る。入退場の折には一礼を心掛け、墓石には手を触れないで。

墓地の南東方向には、**②摂津之国国分寺**(真言宗、長柄中一丁目6)と、筋向かいには**③地下鉄工事現場ガス爆発犠牲者慰霊碑**(国分寺公園南西隅、長柄中一丁目5)がある。



天神橋筋商店街からひとつ東側の**④冲向地藏尊**(天神橋六丁目2、太田診療所南西角)は、かつての葭原墓地の唯一の名残り。大坂七墓の場所は、時代によって変わるが、代表的な場所として、次の7つが有名。梅田、南浜、葭原、蒲生(東野田町に現存)、小橋(おばせ)、千日、飛田であった。



帰りは、天六交差点の地下にある**⑤大阪メトロ天神橋筋六丁目駅**から、堺筋線と谷町線を利用することができる。

さて、最後までお読みいただき、ありがとうございました。今回は、いかがだったでしょうか。

次回1月のコースは、大剣連事務所への往路、大阪メトロ中崎町駅から堀川戎を経て寺町の西半分までめぐる予定です。では、また、お会いしましょう。

